

NO.5

## ヤマボウシ

(ミズキ科)

6月に入ると、山でヤマボウシが花をつけはじめます。水平に張りだした枝に、白い大きな花をたくさんつけるので、遠くからでもよく目立ちます。花びらのように見える4枚の花は本当の花ではなく、総苞片とよばれる部分が変化して花びら状になった飾り花で、中央部に付いている黄色の小さな花がほんとうの花です。ヤマボウシ（山法師）の名前は、中央の花を法師（僧兵）の頭に、4枚の白い総苞片を頭巾に見たてて名付けられています。

秋になると、長い柄の先に集合果と呼ばれるビー玉サイズの赤紫色の大きな実をつけます。この実は食べるととてもおいしく、島根県内ではオツキ、オツケ、ウツケなどと呼ばれ、以前は子供が好んで食べていました。

高さ10mぐらいになる落葉高木で、本州のほか四国、九州に分布しています。材は堅く、昔は小槌や道具の柄などに利用されました。秋には美しく紅葉し花も美しいことから、最近では公園や庭園によく植えられています。なお、公園や街路樹に同じなかまのハナミズキがよく植えられています。ピンクや白の花をつけるハナミズキは、アメリカヤマボウシとも呼ばれるように北米やメキシコが原産で、ヤマボウシとは異なり少し乾燥した土地を好む木です。



▲ ヤマボウシの花



▲ ヤマボウシの葉と花



▲ ヤマボウシの実